CONTENTS

1頁 ・令和4年 年頭のご挨拶
2頁 ・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の取り組みについて
・患者様・家族様とともに
3頁 ・たけのこ保育園の紹介
・ふれあいの里 イルミネーション2021
4頁 ・奈良東病院グループへ外国人介護人材確保に関する現場視察
・エバーライフ香芝に異動して

第133号　ふれあいの里
〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)
発行責任者：鉄村　信治
編　集：ふれあいの里広報委員会
https://www.fureai-net.com/

謹賀新年 ～令和4年 年頭のご挨拶～

社会福祉法人大和清寿会
理事長　鉄村 俊夫

新年明けましておめでとうございます。令和4年、寅年の幕開けです。寅年は十二支の3番目にあたり、子年に生命が生まれ、丑年に種の中で育ったものが、寅年には根や茎が生じて成長する時期だと言われています。また、寅年にちなんだことわざとして「虎は千里往って千里還る」というものがあります。これは虎が1日のうちに千里もの距離を行き、さらに戻って来ることができるという意味合いから、活力に満ちた行動力のある様などを表す言い回しです。昨今から続くコロナ禍ではありますが、本年もしっかりと感染対策を行いながら前進してまいりたいと思います。

さて、昨年を振り返ってみますと「TOKYO 2020」、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催にあたっては賛否両論、様々な意見がありましたが、結果的にはコロナ禍でありながら新型コロナウイルスへの感染対策の下、行われました。また、記憶に新しいところでは10月に衆議院議員総選挙が行われ、その後、岸田新内閣が発足しました。今後の新型コロナウイルス感染対策等、様々な課題への対応にも期待がかかるところです。

最近では新型コロナウイルス第6波襲来が懸念されています。そういった中、昨年11月には新たな変異株「オミクロン株」が確認され、その後日本国内でも感染が確認されました。10月下旬から日本国内での新規感染者数が落ち着きを見せていた中での確認であり、大変驚かされました。まだまだ新型コロナウイルスについては予断を許さない日々が続きそうです。

また、我々医療介護サービスを提供させていただく立場の者として直面しているのが「2025年問題」です。「2025年問題」とはこれまで国を支えてこられた団塊の世代の方々が75歳を迎え、超高齢社会を迎えます。少子高齢化が叫ばれて久しくなりますが、生産年齢人口(15歳～64歳)減少による介護人材不足は深刻です。これまで我々は常に先を見据え、奈良東病院グループをご利用いただく全ての方々により良いサービスを提供できるよう人材育成に取り組んでまいりました。これからもこの方針に変わりはありません。理念にある「患者様中心の医療・看護・介護」「地域社会への貢献」を全うすべく、これからも邁進してまいります。

先にも申し上げましたが、新型コロナウイルスについてはまだまだ先行き不透明な状況です。また4月には診療報酬の改定が実施されます。本年も何かと慌ただしくなることが予想されます。ご不明な点や、何かお気づきの点等ございましたらご遠慮なく何なりとお申し付けください。

最後になりましたが、本年も奈良東病院グループをよろしくお願いいたします。

奈良東病院グループ「ふれあいの里」

健和会理念

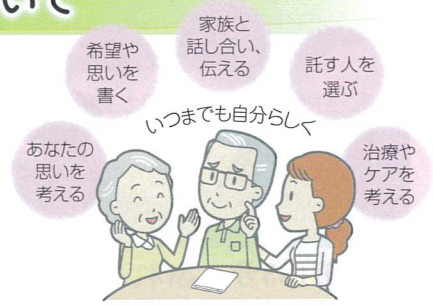
私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

1・患者さん中心の医療・看護・介護
2・地域社会への貢献
3・研究心と向上心を持つ
4・和を尊ぶ

健和会基本方針

1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の取り組みについて



奈良東病院では、地域の高齢者救急の受け入れや近隣の急性期病院からの継続リハビリ、療養目的の入院を受け入れています。治療やリハビリで疾患が治り、ADLが回復し、元の場所に戻られる方も多くいらっしゃる反面、思ったように回復できず、退院先や最期の迎え方を考えなくてはいけない方がいらっしゃいます。患者様自身の意思で選択することができず、ご家族が患者様の意思を推し量って決めなくてはいけない場面も少なくありません。

2018年、厚生労働省は国の方針としてACP(アドバンス・ケア・プランニング)を医療・介護の現場で普及することを目的に「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を改訂しました。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、『人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス』です。将来の意思決定能力低下に備えて、今後の治療・ケア・生活についてご本人がご家族などの大切な人、そして医療従事者等を交えて様々な局面で繰り返し話し合う過程です。このプロセスをたどることで、いつかは迎える人生の最期について自分自身も家族も悩み過ぎず、できる限り納得し、残りの人生を自分らしく過ごすことに繋がります。

我々は高齢者の終末期ケアを支える病院として、ACPの導入に向けて「ACPパンフレット」を作成しました。昨年度はそのパンフレットをもとに院内職員に意識調査を行い、今年度は終末期ケア検討委員会で事例検討や勉強会を行うことで知識を深めました。現在は介護医療院へ入所する際や、終末期における意思決定支援の際、ご本人の考えを聞き、ご家族と一緒に推し量りながら、話し合いを繰り返すケースが徐々に増えてきています。

今後も奈良東病院や介護医療院だけでなく、ふれあいの里や在宅に退院される方についても、その人らしく最期の日まで過ごせる環境の提供や話し合いを繰り返すことで、地域高齢者へよりよいエンド・オブ・ライフケアを提供していきたいと考えています。

(奈良東病院 介護医療院1階 看護課長　山﨑 久代)

患者様・家族様とともに

奈良東病院北館2階病棟では、「患者様・家族様の願いを叶える」ことを病棟目標に取り組みを行って3年が経過しました。この企画については、事前に患者様・家族様にアンケートを実施しています。

初年度は新型コロナウイルス発生前であり、自宅への外出希望が多くありました。その中で印象に残っているのは、外出の準備にあたり、家に入るまでの障害となるものを多職種でカンファレンスを行い、課題を抽出しました。さらに外出前にはデモンストレーションを行い、外出に臨みました。その結果、患者様は大変お喜びになられました。家族様からご本人の様子を聞き、楽しい時間を過ごされたと感じました。

その後コロナ禍となり、ご面会の希望が多くなりました。新規感染者数が増加している時期の面会は難しいため、季節に合った壁飾り作りを毎月行い、その壁に誕生日のデコレーションを施し、写真を撮影し、リハビリの様子をスナップ写真にして、カードと共にご家族にお渡ししています。面会規制緩和後は、リハビリの様子などを動画で撮影し、面会時に見ていただいています。夏は野菜スタンプを行い、患者様・スタッフ全員で一つにまとめて打ち上げ花火として作品を作り、ふれあいの里秋の作品展に出展しました。

北館2階病棟は医療療養病棟です。医療療養病棟の役割として医療区分の高い患者様に対して、生活を主体とした安全・安心の医療提供体制を備えられることが求められています。診療・治療が中心の入院医療ではなく、人間らしい尊厳を重視し、ケアを主体とした生活に主眼を置くべきであると考えられています。長期入院されている患者様、体の不自由な患者様、自分の思いを表出することが難しい患者様が多くいらっしゃいます。医療管理もある中で、患者様の看護・介護は意識的に取り組まないと画一的に陥りやすくなります。また、個別性を重視しない看護・介護には職務としてのやりがいを見出せなくなってしまいます。患者様から感謝や喜びのおことばが感じられにくい場面が多い中、「願いを叶える」ことを通して、患者様の小さな変化にも気づくことができ、療養生活の中で楽しみや生きる喜びを患者様・家族様と共有できる場面を増やすことが看護・介護ケアの喜びにつながっていくと思います。コロナ禍で患者様と家族様が自由に面会できない中、限られた状況でも「願いを叶える」ことを計画し、実行、評価し、病棟全体で取り組むことで、経験の浅い職員でも今後の自分の看護や介護の軸になっていくと思い、日々取り組んでいます。

(奈良東病院 北館2階病棟 看護課長　二重 佳子)

たけのこ保育園の紹介 ～保育士の専門性と役割・子どもたちのためにできること～

たけのこ保育園は、内閣府所管の企業主導型保育施設です。2018年8月1日に開設し、社会福祉法人大和清寿会が設置法人となります。

奈良東病院グループ及び提携企業で働く子育て家庭の支えとなるよう0歳児～就学前のお子様をお預かりする受け皿となっており、園児の定員は、月極保育と一時預かり保育の園児を合わせて110名。早朝保育・延長保育・夜間（24時間）保育を実施しております。

保育方針は、「子どもの心に寄り添う保育」です。子どもたち一人ひとりが、「きょうもほいくえんたのしかったな～」「ほいくえんにきてよかったな～」と感じ、「明日はなにしようかな?」「明日はなにがあるかな?」とドキドキ・ワクワクしながら、今日に満足、明日に期待してもらえるよう努めております。

乳幼児期というのは、人間形成の上で一番大切な時期であると言われております。人間の脳は9歳までに約9割形成されますが、その中でも特に0歳～3歳までに約6割形成され、一番発達する時期です。「三つ子の魂百まで」という言葉があるように、3歳までに誰がどのように関わり、発達が保障されるのかが

重要となります。大切なことは【非認知能力】と【主体性】。これを3歳までにどれだけ養えるかということが、のちの人生に大きく関わってきます。これを獲得するには、自尊感情（私はとても大切な存在なんだ）と自己肯定感（私は私のままでよい、ありのままの自分を尊重する）という2つの心の育ちが土台となっています。その土台を豊かにすることを目指しております。

私たち保育士の仕事は、成果が目に見えるものではありません。目に見えない心の育ちを支えていく仕事です。子どもたちが大きくなって、いろんな問題にぶち当たったときに、あきらめずに立ち向かっていくこと、挫折をしてもそれを糧に挑戦をしていくこと、そういった時に乳幼児期の育ちが発揮されます。「自分の人生、いろいろあるけど幸せだな」と思ってくれたときが、保育士としての仕事が成功した時です。

私たちは、日々子どもたちから大切な時間をもらって保育・教育させてもらっています。子どもたちのこれからは、私たちの関わり次第です。だから常に人として学びが必要となっております。

働く保護者を支え、子どもたちの育ちを保障し、未来へとつなげる。これが私たち保育士の社会的役割であり、子どもたちにできることです。

（たけのこ保育園 園長　峯 幸司）

ふれあいの里 イルミネーション2021

昨年に続き、冬の夜空を彩るふれあいの里イルミネーション2021を点灯いたしました。

ケアハウスふる里から奈良東病院までの通りに、色とりどりのイルミネーションを設置し、約4万3千球の光でふれあいの里が華やかに染まりました。イルミネーションの全ての電球にLEDを使用し、環境や節電にも配慮しております。

今回は、新たにシャンパンゴールドに輝く美しいイルミネーションも登場し、より一層ふれあいの里が光の演出に包まれました。見る場所によってイルミネーションの色合いや雰囲気が違い、様々な角度から楽しむことができました。

また、設置作業中には、患者様や利用者様、地域の皆様から「今年はどのようなイルミネーションになるのかな。」、「毎年、楽しみにしているよ。」との声をいただき、点灯を心待ちにしてくださっていました。

ふれあいの里の冬の風物詩として、毎年楽しんでいただけるよう全力で取り組んで参ります。

ふれあいの里
イルミネーション2021
動画配信中
ぜひご覧ください

（奈良東病院 サプライ・サービス課 西内 由敬）

奈良東病院グループへ外国人介護人材確保に関する現場視察
～厚生労働省福祉基盤課・奈良県福祉医療部より来訪～

令和3年12月2日(木)に厚生労働省福祉基盤課 福祉人材確保対策室、そして、奈良県福祉医療部 長寿・福祉人材確保対策課の方が外国人介護人材確保に関する現場視察として当グループを訪問されました。視察目的は以下のとおりとなります。

① 外国人介護人材が修学及び就労している現場確認
② 学校として工夫している国家試験対策等の確認
③ グループ内の事業所でアルバイトや実習を行うにあたり、学校と事業所でどのように連携しているか等の確認
④ 来年度の入学者数の状況等の確認

午前中は、吐山学園(HAYAMA International Language School・奈良介護福祉中央学院)を視察され、学長や教員等から学園のご紹介をさせていただき、意見交換を行いました。

その後、校内見学と7人の留学生との面談を実施させていただきました。

午後からは、当グループの病院や介護施設を訪問され、就労されている外国人の看護師や介護福祉士のスタッフと意見交換をさせていただき、その後、実際に勤務されているフロアを視察されました。

今回の視察において、意見交換された外国人スタッフの中には、夫と子ども2人と一緒に生活されている方もおられました。母国を離れ、奈良県で生活する思いを厚生労働省の方も確認され、外国人の方にとって、家族で生活することが安心感につながり、大切なことだと認識していただいたように思います。

国を移動して生活される外国人の方にとって日本人スタッフのサポート、そして何よりお互いの信頼関係が大切であることを私どもも再確認できた良い機会であったと考えています。

今後、我が国は高齢化にともない労働人口が減少していきます。特に介護人材の減少は大きな社会問題となってきています。これまで、ご縁でお越しいただいた外国人スタッフとの共存していける社会を当グループから奈良県より発信していきたいと考えています。

(奈良東病院グループ 本部事務部長　岡田 智幸)

エバーライフ香芝に異動して　～館長職拝命のご挨拶～

この度、令和3年5月1日より介護老人保健施設ならふくじゅ荘から異動し、エバーライフ香芝にて館長職を拝命いたしました。

エバーライフ香芝は香芝市北東部に平成23年6月1日、全60個室の介護付き有料老人ホームとしてオープンし、以来、香芝市・大和高田市・北葛城郡・生駒郡を中心とした地域の利用者様の生活を支援させていただいています。

エバーライフ香芝には下記の大きな特徴が2つあります。

① 認知症や精神疾患等の利用者様に対し、内科医の訪問診療だけでなく、精神科医も必要に応じて診療を受けることができます。
② 特定疾患のある方や終末期の利用者様、精神科訪問看護の指示がある場合等、必要に応じて併設の訪問看護ステーションひまわり香芝から訪問看護や訪問リハビリのサービスを受けることができます。

他施設には無いこれらの特徴を活かし、手厚いサービスを提供できることがエバーライフ香芝の大きなメリットと言えます。

また、令和3年9月～11月にかけて、外壁工事を施工しました。壁の汚れやクラックも改修し、見違えるほど綺麗になりました。

現在、香芝市の人口は約78,000人。高齢化率22.4%と奈良県全体(28.7%)からみれば、まだ低い方になりますが、『超高齢時代』の中、介護付き有料老人ホームとして地域貢献するため、利用者様に喜んでいただき、職員にとっても働き甲斐のある施設運営を心掛けていきたいと考えております。これからもよろしくお願いいたします。

追伸　Instagramを開設しました。一度ご覧いただけますと幸いです。

(エバーライフ香芝 館長　福西 康夫)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。新たな1年のスタート、令和4年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年に続き、コロナ禍で迎える年越しとなりました。

毎年12月になると、その1年の世相を表す「今年の漢字」が発表されますが、2021年は『金』が選ばれました。これは2000年、2012年、2016年に続き4回目だそうです。いずれもオリンピックが開催された年です。東京オリンピックでの日本人選手の多数の金メダル獲得が人々の心に刻まれた結果でしょうか。また、「新語・流行語大賞2021」の年間大賞には『リアル二刀流／ショータイム』が選ばれ、大リーグ大谷翔平選手の活躍が印象に残った結果ではないでしょうか。さらに、「新語・流行語大賞2021」の上位には『ゴン攻め／ビッタビタ』といったオリンピックの競技内から生まれた言葉が入り、東京オリンピックが人々に与えた印象は大きかったように感じます。

新型コロナウイルスについては、昨年11月に新たな変異株「オミクロン株」が発見されました。日本国内でも数例確認されています。どのようにすれば感染を防ぐことができるのかというのはまだまだ解明が難しい段階ですが、引き続き「手洗い」「うがい」「手指消毒」の徹底をお願いします。

最後になりましたが、令和4年が皆様にとってより良い1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。　**(広報委員長　橋本 重之)**